



アイ・リンクタウン展望施設(ザ タワーズ ウェスト45階)から見た美しい街並み

市では、平成14年度に「資源循環型都市いちかわ」を目指すべき将来像とした「市川市一般廃棄物処理基本計画(じゅんかんプラン21)」を策定しました。以来、10年間、ごみの12分別マイバツク持参運動などの取り組みやじゅんかんパートナーとの協

力により、ごみの減量と資源化の推進に成果を上げてきました。平成21年度にこの計画の見直しを行い、平成30年度までの目標値を掲げ、さらなるクリーンな街づくりを目指しています。

問 ☎32033971 循環型社会推進課

ごみを減らして エコでグリーンなまちづくり

市民・事業者・行政の協働でさらなるごみの減量・資源化を



循環型社会推進課長
横川澄子氏

1. 担当課長としての意気込みを教えてください

市民のみなさんが「市川市に住んで良かった」と思えるような街にしたいと思っています。生活していれば誰もが必ずごみを出します。一番身近なごみステーションがきれいだと気持ちがいいですね。決められたごみの日に、決められた分け方と出し方をするとといった基本的なことを守っていただければ、ごみステーションをきれいな環境に保つことができます。

また、市は平成14年10月からごみの12分別を行っており、今年でちょうど10年を経過しました。長い年月で定着してきていますが、ここで改めて、分別することの大切さをPRしていきたいと考えています。

2. 「資源循環型都市いちかわ」としての目標を教えてください

本市は環境への負荷をできる限り低減し、廃棄物の発生を抑制した「資源循環型都市」を目指し、平成21年度に目標値を設定しています。平成30年度に、ごみの排出量を一人一日当たり830g以下(平成23年度は860g)、ごみの総量に対する資源化率を35%以上(平成23年度は約20%)、とすることを目指しています。平成30年度の目標値には、さらなる取り組みが必要です。みなさんの協力なしでは達成できません。よろしくお願いします。

3. 目標値を達成するためには、どのようなことをしたら良いのですか?

何よりもまずごみを出さない(リデュース)ことです。また、使い終わったものでも繰り返し再使用する(リユース)、資源として再生利用できるものは分別して出す(リサイクル)ことが大事になります。ライフスタイルを見つめ直し、小さな行動でも、多くのごみが減量できます。

4. 平成23年度でごみ処理にかかった費用は?

総費用は56億7,000万円、市民一人当たりでは、1万2,000円かかっています。本市には焼却灰を埋め立てる最終処分場がないため、ごみ処理費用の中には、市外の最終処分場への運搬・処理費用が含まれています。

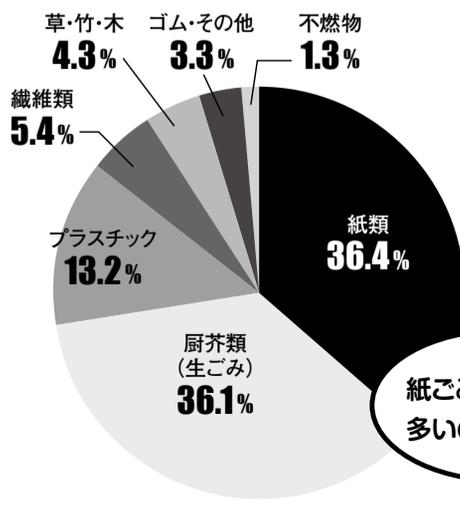
5. 行政として今後さらに力を入れて取り組んでいくことは?

ごみの減量と資源化を持続して啓発していきます。「混ぜればごみ、分ければ資源」、ごみの12分別が基本です。この原点に戻って市民のみなさんに喚起していきたいです。また、事業者(お店など)とも協働して、ごみの減量と資源化を推進していきます。

6. 最後に

これから取り組む方や分別について詳しく知らなかった方などは、いきなりすべてを完璧に分別することは難しいでしょう。分かりやすい物から良いので、分別し、資源化に取り組んでもらえればと思っています。最初は難しくても、徐々に取り組みの項目を増やしてみてもいいですか。この広報いちかわが、少しでも多くの方がごみの分別に取り組むきっかけになればと思っています。

燃やすごみの組成割合(家庭ごみ)



ごみ減量と資源化のポイント

家庭から出る燃やすごみの36.4%は紙ごみが占めています。この中には、分別をすれば資源としてリサイクルできる紙がたくさん含まれています。

紙ごみって意外に多いのね...

